

久保・長江中学校区の学校再編に係る  
育友会・PTA役員と教育委員会との第5回意見交換会議事録

- 1 日 時 令和5年6月19日（月） 19：00～20：00  
 2 場 所 尾道市役所 4階 大会議室  
 3 出席者 久保小学校 育友会役員 2名、長江小学校 育友会役員 2名  
 土堂小学校 育友会役員 4名、山波小学校 育友会役員 3名  
 久保中学校 PTA役員 2名、長江中学校 PTA役員 欠席  
 教育委員会事務局 11名

宮本教育長、川鰭教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長、  
三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、安保学校経営企画課課長補佐、  
石川庶務課管理係長、宮崎学校経営企画課企画振興係長、玉里庶務課管理係主任  
才谷教育指導課指導主事

4 進 行

担 当	内 容
宮本教育長	<p>19：00～</p> <p>1 開会 2 挨拶</p> <p>○教育長挨拶</p> <p>皆さん、こんばんは。昼間のお仕事等で大変お忙しい中、またお疲れの中、久保・長江中学校区の学校再編に係る育友会・PTA役員さんとの意見交換会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>第4回の意見交換会を5月15日に行い、その後、6月2日にしまなみ交流館にて保護者説明会を、6月3日から6月7日にかけて、小学校区ごとに地域説明会を開催し、再編案について、多くのご意見を頂戴いたしました。</p> <p>本日は、保護者説明会・地域説明会の報告、今後の予定について等ご説明申し上げ、ご意見を頂戴いたしたいと考えております。</p> <p>その前に、少々お時間をいただきまして、私の、教育長としての、学校再編に対する思いをお話させていただきます。6月2日からの保護者説明会や地域説明会でもお話をさせていただいたが、その後、新聞報道もありまして、私の思いが十分説明しきれていないということも課題として思いましたので、今日はその辺りも少し補足説明もさせていただきながら、少しお時間をいただき、皆様にお話させていただきたいと思っております。では座って失礼します。</p> <p>まず、この前の新聞に、県立の叡智学園を視察に行きまして、その教育を参考にしてということで、叡智学園を参考にとというのがその波紋</p>

という形のタイトルで新聞報道されまして、また7日に市議会議員の皆様にも説明をさせていただいたんですけども、そのときも叡智学園のようなエリート校をモデルにして、先生方や子供たちに、負担が大きいんじゃないかという、そういったようなご指摘もいただいたんですけども、そのことでこれは、私の説明不足といいますか、そういうところがあるなということで反省をして、今日もここに来るまでにどういうふうに皆さんにご説明したらいいかっていうことで考えてたんですけども、十分まとまりきれてないところもあって、恐縮なんですけども、今時点で、お話してできることをお話させていただいた後に、教育長としての思いをお話します。

叡智学園を視察して、叡智学園で行われている教育を尾道の公立学校に合う形で再構成して取り入れたいという説明をさせていただきました。この説明をしたことによって、先程も申しましたように、ある市議会議員の方は叡智学園のようなエリート校をモデルにするのは、先生にも子供にも負担になるというようなご指摘もありましたし、保護者の方もどうなんだろうっていう思いを持たれた方もいらっしゃるんじゃないかと思います。叡智学園で行われている教育っていうのは少し詳しく説明をさせていただきますと、スイスのジュネーブに本部があります。国際バカロレア、これはインターナショナルバカロレア略してIBと言っているんですけど、IB機構が提供している国際的な教育プログラムになっています。実は日本の政府は、国際バカロレア機構と連携を最近強めていまして、これからの日本の教育を国際的な水準にしていくためには、この国際バカロレア機構が提供しているプログラムを参考にして、日本の教育を充実させていかなきゃいけないっていう、そういう思いを持っています。

文部科学省が設置しているんですけども、国際バカロレアの普及促進に向けた検討に係る有識者会議取り纏めというのがあって、これももう5次から6次ぐらいの取り纏めなんですけど、最新、令和5年3月28日に取りまとめられているものです。これを読ませていただいた方が、私が説明するよりは分かっていたのかなと思うので、引用して読ませていただきます。

「国際バカロレアが提供する国際的な教育プログラムは、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としている。またその特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成することが期待されて、平成30年度以降、順次実施されている学習指導要領等で目指す主体的・対話的で深い学び評価方法、社会に開かれた教育課程の

カリキュラム・マネジメント等はIB教育の理念と共通しており、IB教育の実践により、IB認定校には、これらに関するノウハウがあり、IB認定校というのは実は政府が国内で数を増やそうとしていまして、2022年までに、200校、国内で認定校を作っていこうという目標を掲げていたんですけども、今207校認定校があります。IBを国内に普及し、我が国における初等中等教育の好事例を形成することが学習指導要領等で目指す生きる力の育成に寄与するものと考えられる」というふうに書いてあります。つまり、何が言いたいかというと、今の日本の学校教育が目指しているのは、この国際バカロレアと共通の理念のもとに日本の教育をより充実したものにしていこうという、そういう流れの中で、今教育が改革されてきているということを皆さんにまずは知っていただきたいというふうに思っています。その先頭を走っているのが、広島県でいうと広島叡智学園なんですね。だから、今実は、高校の科目は多分皆さんが履修された頃と全然変わっていると思うんです。高校生のお子さんがいらっしゃったら、きっと、科目名が自分たちの勉強したときとは、全く変わってきているというのを強く感じられると思うんですけど、例えば、地理総合とか歴史総合とか古典探究とか論理国語とか、いろんな私たちが学んだタイトルじゃない教科書がたくさんできているんです。これはなぜかということ、国際バカロレアの科目に合わせて、高校の科目を再編したんです。この度の学習指導要領から変わってきたんですね。ただ小中学校についてはまだ研究段階ですので、これからおそらく新しい次の指導要領があと何年かしたら、今、中央教育審議会では話をされていますので方向性が今度の新しい学習指導要領には、さらにこの国際バカロレアの教育の理念をしっかりと反映したものが多分示されます。そうすると、日本の小中学校の教育も一段とそちらの方に国際水準の教育を目指した方向性に行くんじゃないかなと私は思っています。その叡智学園を視察したっていうのは、エリート校を学校再編して創ろうっていうわけじゃなくて、これから日本の目指していく教育今、実際にやっている学校が近くにあるんだからそれを見に行き、そして新しい学校を創るんだったら、そういう教育を参考にし、いきなりそういう叡智学園のやっている教育っていうのはできませんので、尾道の子供たちや先生方に負担のかけない形で再構成してその理念を取り入れた教育をしていきたい。そういうお話をしたんです。そういう思いを持って、本当はお話をしたんですけど、そういう説明もなしにお話したので、ちょっと誤解をされたところもあったのかなと思うので、まずそれを前提に置いて、今からのお話を聞いていただけたらなというふうに思います。

まず初めに、久保小学校、長江小学校、土堂小学校、それから山波小学校の4つの小学校、久保中学校、長江中学校の2つの中学校は、長い歴史と伝統のある素晴らしい学校ばかりでございます。そうした中、複雑な気持ちもございますが、児童生徒数の減少を踏まえ、学習集団の適正な規模の確保を図り、子供たちの教育環境を充実させる観点から、現行の計画で学校再編を進めていきたいと考えております。学校を再編し、新しい学校を創るにあたって、まず大切にしたいことは、それぞれの今の学校の良いところ、地域の宝、こういったものをしっかり継承して教育活動に活かすということでございます。その上で、変化の激しい社会、未知なる環境あるいは未知なる仕事に就くかもしれない子供たち、そういった現在の教育課題を踏まえて、私は新しい学校をこんな学校にしたいと考えております。子供たちにとっては新しい学校の勉強がさらに楽しくなったと思える学校、保護者の皆様がこの学校は、これまでの各学校の良さを活かしながら新しい教育が行われていると認めていただける学校、地域の皆様が、地域を大切に、郷土愛を育てながら、新しい教育をしていると思ったださるそうした学校でございます。

皆様に見ていただいた前回、プレゼンの中に私が強い思いを持って組み込んだ内容がありますので、そのお話をしたいと思います。

まず1つは、モジュール学習の導入です。私は、土堂小学校の校長としてモジュール学習に取り組みました。有効性は実感しています。モジュール学習というのは、15分程度の短い時間で行う学習で音読計算、漢字などを繰り返して定着を図る学習です。新しい小学校や山波小学校でもモジュール学習を行って、子供たちの集中力を養うとともに、基礎基本の学力をしっかりと育成していきたい。そのように思っています。

次に新しい授業のイメージです。ここが先程お話ししたところなんです。先日、大崎上島町にある広島叡智学園に行き、これからの時代に求められる新しい事業の姿を見てまいりました。すると、叡智学園に行っていない教育委員会の職員から自分も叡智学園に行かせてほしいと、次々に声が上がり、来月10名の職員が叡智学園に行き授業を見てくる予定にしています。叡智学園の教育、尾道の公立学校に合う形に再構成し、取り入れていきたいと考えています。叡智学園で行われている授業をもとに、新しい授業イメージとして国語を例にお話をします。物語文、学習する際に、これまでは、先生が「今日は登場人物が〇〇したときの気持ちを考えましょう。」と学習課題を示し、教師主導で子供は受身の姿勢になりがちでした。これからの新しい授業イメージ

は、先生が学習課題を示すのではなく、子供たちが自ら読みの学習課題を決めて主体的に学習を進めていく授業です。例えば4、5人のグループで、まず個別に文章を読みます。次に、みんなで考えたいことを学習課題として発表し合い、自分たちのグループの学習課題を決めて、読みを深めていく、そういった授業でございます。この授業は、真の意味で子供たちの主体性から生まれる学習となると思います。同じ物語を読んでも、人それぞれに感じ方や考え方が異なり、唯一の正解があるのではなく、いろんな正解があることに気づくと思います。そして多様な見方、考え方、感じ方を尊重できる感性を養うことにも繋がります。実はこの唯一の正解があるのではなくて、いろんな正解があり、多様な見方、考え方、感じ方を尊重できる感性、これは国際バカロレアの理念なんです。そういったいろんな外国の人たちとこれから、もしかしたら一緒に仕事をしたり、一緒に交流したりするだろう子供たちが他国の文化や歴史、そういったものを尊重しながら、しっかりと人間関係が築ける、そのためには、こういった国語であっても、そういう授業をこれからしていかなきゃいけない、そういうふうに私は思っています。ここで大切なのは、このようなグループがいくつもあるということです。他のグループの考えたことを聞いてみたいという新たな学習意欲が生まれ、互いにグループで発表し合い、気づきを交流し合うことにより、子供たちの学びがより広がったり深まったりして大きな学習効果ができるのではないかと思っています。

次に、グローバルな学びについてですが、英語教育について思いをお話します。これからの子供たちにとって英語力は必須であります。小学校1年生から英語教育を充実させ、中学校3年生で、全ての生徒が日常の会話ができるレベルの教育を行いたい。それを目指したいと思っています。そのためには、学校生活の中で英語を使って聞いたり話したりする場면을劇的に増やしたい。そう思っています。今、週1回とか、3年生以上外国語活動、5、6年生は外国語っていう勉強しているんですけども、何が課題かという、週に1回、1時間や2時間、英語の勉強をしても、それが日常で使うことに繋がらないとなかなか身に付かないと思うんですね。私、外国に行ったことないんですけども、多分日本語がない、英語しか喋れる人がいないところに行ったら、きっとそれを必死に聞いて理解しようとするでしょうし、学んだ単語を文法が分かんないけど、とりあえず並べて自分の言いたいことを伝えようとするその必死さがあれば、やっぱり英語は少しずつ身に付いていくんじゃないかと思うんですけど、まだ日本の英語教育は日常レベルまで英語を使うっていう頻度、そういう機会が少ないと私は思っています。な

ので劇的に増やしたいと思っています。例えば、全校朝会で校長先生に、校長先生の話の一部を英語で話していただく。子供たちに英語で言ったんだけどわかったかなって聞いていただいて、子供たちがこんなことじゃなかったのかなって、前後の日本語の話を受けてたぶん英語だったらこんなことを言っているんじゃないかなっていうふうに話し、実は日本語で言うところの内容だったんだよってというふうに言ってもらいます。あるいは子供たちが昼に給食委員会が給食の放送をしています。または、〇〇委員会がいろんなところで校内放送していると思うんですけど、それも基本英語で行う。小学校は学期に1日、中学校は学期2週間程度、英語だけで生活する時間を意図的に作っていく。子供たちが困らないように、小学校1年生から学校生活に必要な英語を教え、子供たちが英語を使って生活できるようにするというのが必要かなと思います。また、オンラインを使って、海外の学校と英語で交流したり、尾道に観光に来てくださっている外国人観光客の方とリアルに英語で交流をしたりといったことを考えています。ただこうした教育を実現するためには、先生方や子供たちが困らないように、英語の教員やALTの配置、英語の堪能な地域ボランティアや保護者の皆さんなど、できるだけ多くの人材を確保していく必要があるのかなというふうに思っています。

次にローカルな学び。おのみち学についてお話をします。この皆さんの地域には、誇るべき歴史、文化、産業があります。偉大な先人の方がいらっしゃいます。これらを教材として活用し、生活科や総合的な学習の時間でおのみち学として、探究的な学習を行いたいと思っています。探究的な学習とは、先生が教えるのではなく、子供たちが興味、関心を持ったことを学習の出発点とし、子供たちが学びたいことを学びたい方法でとことん調べ、それをまとめて発表する一連の学習を指しています。未知なる環境への適応力を身に付けるための新しい教育方法の1つです。おのみち学の取組には、地域の皆様や保護者の皆様の協力が必要です。先生方の負担を軽減する意味でも、歴史、文化、産業などに詳しい地域保護者の皆様をゲストティーチャーとして積極的にお招きし、おのみち学の充実に繋がりたいと思っています。おのみち学のキーワードは地域への貢献でございます。そのため、学習のゴールとして小学校では、伝統文化祭、中学校では、町づくり政策提案発表会というのを考えました。中学生の新鮮かつ独創的なアイデアで新たな尾道名物が生まれたり、尾道を活性化する新たな産業が生まれるかもしれません。

次に、在校生や先生方への配慮についてです。先生方の意識が統合に

向き、労力や時間が取られるので、統合前に卒業する在校生の教育は大丈夫かと、心配されている方もいらっしゃると思います。絶対に在校生の教育がおろそかになってはならないと考えています。今学校に通って頑張っている在校生の教育に支障がないよう、教育委員会として、在校生や先生方への配慮をしっかりと考えていきたいとそう思っています。また、学年の途中から新しい学校に編入することになる、在校生への配慮は当然しっかり行っていきます

学校統合するまでの期間における合同学習や合同行事、新しい学校にスムーズに適応できるようにするための体験的な学習を実施したいと思っています。新しい学校における教育内容や教育方法を説明し、子供たちがワクワク、ドキドキして開校日を迎えることができるように努力したいと思っています。また、子供たちや保護者が安心できる、教職員の人事、先生方もスムーズに新しい学校で教育活動ができるようにするための研修をできるだけ負担を掛けないような方法で行っていききたいというふうに思っています。

終わりになりますけれども、小中一貫教育校というのはこれからの尾道の学校教育をリードし、その成果や方法は市内の他の学校へ普及し、尾道全体の教育を新たなステージへと引き上げていくものにしたというふうに思っています。

それを実現するためには、教育委員会だけでは無理です。地域保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。どうか私たちと一緒に新しい学校を創って参りましょう。

以上のような説明をさせていただきました。本来であれば皆様に5月15日にこのお話をしなければならなかったんですけども、ちょっとその時点では、まだ、私の考えが検討段階というところで十分説明ができないというふうに思いまして、説明ができていなかったことを大変申し訳なくお詫びしたいと思います。今日、話をさせていただいて、叡智学園の教育を再構成して取り入れたいというそういうふうな思いで申し上げたのは最初にお話したところで、できればこのことをご理解いただいて、もし何か不明な点とか質問がありましたら、私のお答えできる範囲でお答えしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします

### 3 協議

続いて、3の協議に移ります。

(1) 保護者説明会・地域説明会の報告について説明をお願いします。

教育委員会事務局  
(司会)

三浦学校経営企画課長

それでは失礼いたします。資料をお手元の資料もご覧になった方も多いのかなというふうに思いますけども、6月2日に保護者説明会を行いまして、6月7日まで地域説明会を行いました。その報告をさせていただきます。まず資料1の裏側になりますけども。ここに保護者説明会等地域説明会に参加していただきました方の人数について記載をしていますので、ご覧いただければと思います。それから、地域説明会、保護者説明会両方とも先程、教育長が申し上げましたような教育長のお考えを説明させていただくとともに、主に教育内容の面でこういう教育を進めていきたいんだという話をさせていただきまして、様々なご意見をいただいたところです。それが資料2の方にありまして、本来であれば今日議事録をお渡しできればよかったですけども、今日には間に合いませんでしたので、主なご意見ということで、かいつまんでここに載せておりますのでここを読みあげさせていただきます。

まず、第2回保護者説明会、しまなみ交流館ホールで6月2日に行い、次のようなご意見をいただきました。

- ・学校ごとに状況が異なるので、各学校の意見を聞いて判断をしてもらいたい。また、今後も保護者や住民の意見を聞く場を持ってもらいたい。
- ・通学路の安全・安心の確保の方策について、更に検討してもらいたい。
- ・三幸小学校は、保護者の反対で統合ができていないが、この例にならい、ぜひ土堂小学校も存続させるべきである。
- ・住友銀行、今Bankと言っていますけれども、築80年を経過しているが、土堂小学校校舎も継続して使用ができるのではないか。
- ・開校で準備期間が短く負担が大きい。スケジュールを再検討してもらいたい。
- ・仮校舎から新しい学校に移転した後、さらに、新しい校舎に移転するとなると、子供の負担が増える。今は落ち着いた生活をしており、子供目線でもう一度検討してほしいというご意見でした。

それから地域説明会、まず土堂小学校区、6月3日の土曜日に行いましたけれども、

- ・土堂小学校は、校舎を耐震化して存続をさせるべきである。
- ・土堂小学校は、駅前にあり利便性から存続をさせるべきである。
- ・土堂小学校は、町づくりの観点から存続をさせるべきである。
- ・土堂小学校は、地域コミュニティを大切にする観点からも存続させるべきである。



- ・他市町からの移住者を増やすことで、児童数を増やすべきである。
- ・日比崎小学校区の一部を土堂小学校区とすることを検討すべき。
- ・学校再編案を検討する前に、存続は検討したのか。
- ・三幸小学校は、保護者の反対で統合ができていないが、この例にならない、土堂小学校も存続をさせるべきである。
- ・小規模校の教育をいけないとする根拠は何か。教育委員会の再編案では、統合後もしばらくすると1学級の規模になるではないか。
- ・土堂小学校に係る土砂災害特別警戒区域は、5段階のうち5であり、一定の条件を満たせば施設の建設は可能である。また、土堂小学校以外にも、市内の多数の学校が土砂災害警戒区域等に指定をされているではないか。
- ・築80年以上の校舎を使用しないという根拠は何か。東京には、築80年を経過しても学校として使用している校舎があるし、住友銀行は築80年を経過しているが、耐震化をして、交流施設として使用している。
- ・長江通りを重い荷物を背負って通学するのは、事故と犯罪の面から危険である。
- ・令和7年度統合は、保護者の負担を考えると困難である。開校準備委員会のメンバーの選定は、育友会の仕事ではない。
- ・子供たちも、元へ戻ると思っている子供の気持ちを尊重してもらいたいといったご意見でした。

久保小学校区ですけれども、6月5日の月曜日ですが、

- ・提案された学校がエリート校にならないことを望む。
- ・先生の多忙化が言われる中で、提案があった取組を行うことが可能か。
- ・教育内容よりも児童数の減少に伴い、よりよい教育環境を作っていきたいという説明を重視すべきではないか。競争させながら教育を行うことが望ましい。
- ・施設一体型の小中一貫教育校の方が望ましいのではないか。
- ・小規模校でも、コミュニケーション能力は育成できるのではないか。
- ・新しい学校でも、地域を大切にして、どんどん学校に来るように呼び掛けてもらいたい。
- ・旧久保小学校の跡地は、例えば高齢者が観光客を迎えする場のような、地域コミュニティが活かさせる場としてほしい。
- ・地域コミュニティを維持する観点から、各地域に学校存続させてもらいたい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校にある郷土資料室はどこいくのか。</li> <li>・学校の名称はどう考えているか。といったご質問でした。</li> </ul> <p>山波小学校区ですけども、6月6日に行いまして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数の減少、施設の老朽化、教員の数の維持など、様々な問題があるが、子供が主人公である。教育委員会は教育のエキスパートだし、無責任なことは言わないと思う。</li> <li>・今回の説明はメリットばかりだが、デメリットについても説明があるといい。</li> <li>・地域を愛する教育を行ってもらいたい。</li> </ul> <p>そして6月7日最終日になりますけども、長江小学校区です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校でも、児童生徒の力を育むことができる。</li> <li>・提案があった英語教育の充実はぜひ行ってもらいたい。</li> <li>・地域を大切にすることを。行ってもらいたい。</li> <li>・ワーキングスペースや専門教室のメリットは何か。</li> <li>・英語教育の充実や、本日提案のあった教育内容は、格差に繋がらないか。</li> <li>・施設分離型の小中一貫教育校だが、行事は合同で行うのか。</li> <li>・中学校の校舎は耐震化できており、64億円をかけて校舎を新築するのは市民への負担につながる。</li> <li>・長江通りについては、地域も見守り活動をしている。危ないことは危ないと教えることも必要である。</li> <li>・祇園橋から尾崎までが範囲だが、対策はあるのか。</li> <li>・ロッカールームで起きるいじめへの対策を行ってほしい。カメラをつけてほしい。</li> <li>・土堂地域の合意がなくても進めていくのか。このままでは子供のためにはならない。どこかで決断して久保小学校と長江小学校は進めてほしい。</li> </ul> <p>といったご意見をいただきました。読み上げただけになりますけれども、代表的な、こういった意見をいただきましたので、ご報告させていただきます。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>ただいま説明した内容について、ご意見ご質問があれば、お受けいたします。いかがでしょうか。</p>
<p>長江小学校育友会役員</p>	<p>今、ご説明があったことの部分で何点かあります。まず1点目。国際的な基準のという話がございました。これから準備期間を含めて1年半しかない中で、令和7年という日程的なもので、今教育長おっしゃら</p>

れたような教育っていうのは叶うのかなと。叶えたいは、それは思いですから結構なんですけど、実際に1年半という、この期間の中でそれだけの準備をするだけの環境があるのかなというの心配になります。

それと、国際的、国際的という文科省の指針があるんで仕方ないのはよく分かるんですけど、その反面で地域の伝統や文化を守ると、相反すると思います。というのが今小学校でいえば4校が合併するとしましょう。4校それぞれに歴史もあれば文化もあれば引き継ぐものがあるんですが、これから1年半でどのようにくっつけるのかなと。伝統を守っていくようなそんな教育をされるといいますが、今守っている伝統をどの時点でなくされて、新しい伝統を作られるのか、新しい学校のイメージを語られる前に、今あるものをどうやって壊していくのかっていうのは全く出されてないんです。

でも今の子供たちは、壊そうとする伝統を守ろうとしているんです。その辺が1年半という、その期間の中でできるのかなって思いますので、答えられる範囲で結構なんですけど、こういったタイムスケジュールでやっていこうかなとか、そういった何かあれば、お答えいただければなと思います。

宮本教育長

まず1年半、令和7年のスタートについて、そこで私が先程語った教育がスタートできるのかというお話なんですけども、1から10ですと、どの程度できるかっていうのは、まだ私も分かりませんが、10の完成形っていうのは、たぶん令和7年度には完成形にはならないと思います。ですけども、新しい学校を創って、まだ何年後かっていうのは、はっきりは言えませんが、何年後かには完成を目指して、こちらが理想としている学校になるように、やっていきたい。今はそれぐらいしかちょっと申し上げることができないかなと思います。

それから、2点目のそれぞれの学校や地域に素晴らしい伝統、地域の宝があります。私はそれを壊して、新しいものを作ろうっていうそういう発想は今持っていません。それぞれ、太鼓とか能とか神楽とかいろんな今、取り組んでいらっしゃる素晴らしい文化があると思うんですけども、これをどのように新しい学校に引き継いで活かすことができるのかっていうそういう観点で今考えています。例えば、学年ごとにそういったいろんな伝統、郷土芸能というそういうものを体験していくのが学年ごとにするのがいいのか、あるいは縦割りで太鼓したい人は何年か太鼓ずっとやっていく、能をやりたい人は能をやっていく。篠笛をやりたい人は篠笛をやっていく。どういうやり方がいいのかっていうのは、また皆さんのご意見もしっかり伺いながら、今あるものを活か

<p>長江小学校育友 会役員</p>	<p>して、新しい学校に、活かしていきたいとそのように思っています。</p> <p>結構なご意見で、そうなればいいなと思います。ただ、子供を通わせる、一保護者としての意見で言いますと、全部足し算したら、出来ないんです。子供の負担、地域の負担、先生の負担と言われますけど、やっぱり主役であるのは子供です。この学年で太鼓をやりました。この学年で篠笛やりました。結局何も身に付かないです。各学校でやられても、長江であれば、篠笛4年生、5年生、6年生と3年間やって、やっと6年生のときユニフォームを着れて外で発表できる。でも、1年通じてずっと練習できるわけじゃないんです。複数年やられると思います。ですから、この学年でこれをやると縦割りでやるって言ったら、文化という言葉が残るんですけど、中身が何も残らない気がします。それ以上に子供たちに大変負担がかかると思いますので、そういった意味も含めて、この準備期間が、準備委員会が、これから立ち上がったとして、1年、今の時点でまだ何も決まっていない状態で、1年でスタートが切れるのかなと本当に心配になります。大人はやればいいと言います。でもやるのは子供なんです。その上に、英語であったり、その先進的な国際的な基準の教育を持ってくると、学ぶものが増えすぎて結局何も残らないのかなと。今言われたように1年後、令和7年に全てが、10の状態です。スタートは切れません。であるならば、今お話を聞く限り、スタート地点を、統廃合に関しては全く反対する気ないんです。令和7年中にその数字を出していただければ結構なんです。でも校舎の完成も含めて、令和9年、10年がスタートだというもう1つのスタートがありますよね。その時までを、準備期間にしてもいいのかなと思えるようになりました。ですからあくまでもそのスタートにこだわる。行政ですから、令和7年で出されたんでこだわることは分かります。でも令和7年にこだわることによって、子供たち地域に対する負担でしかないなというふうに思いましたので、これも開始時期も含めて一応検討していただいて、もうやるものはやるで結構なんです。検討していただく材料にいただければなと思います。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>意見ありがとうございます。負担、負担っていうお話については、私このように思うんですね。今やっいてる。例えば10時間使って何かをします。人間の労力っていうのは、そんなになんていうんですかね、限られたものですので、労力と時間っていうのはもう必要以上に増やすことは難しいと思うんですね。ですので、今やっいてることを、考え方をちょっと変えて。10やっいてるうちの半分をちょっとやり方を変え</p>

て、その労力と時間を使っていくとだから新しいものにプラスアルファで何かしていこうっていう考え方ではあります。

今やっている何割かを変えていく。だから、労力と時間は今と変わらないっていうんですか。10時間やっているのに12時間やろうという話じゃないっていうことです。そういうふうに今やっている中身をちょっと変えて、今私がお説明したような新しい教育に変えていこうという発想ですので、プラスアルファで、10時間が12時間になるんだろう20時間になるんだろうっていう考え方は思っていません。

まずそのことを1つ思っていること。それから先程そうすぐいいことをおっしゃってくださって、1年例えば学年ごとやると、さっきおっしゃったように、その身に付くものが身に付かないっていうのは確かにそうだなと思って聞かせていただいたんです。ですから、多分太鼓とか篠笛とか能とかも多分何年かを単位にしてきつと継続して練習を積まれていて、そのレベルのものになっているんだと思うので、そういうことからすると、学年ごとやるっていうよりは、何か継続してやれる方策を考えなきゃいけないのかなと思って聞かせていただきました。ですので、そういったようなご意見をいただいて、我々も、より実際に合う、子供たちにとっていい形のものにしていけたらなというふうに思って聞かせていただきました。ありがとうございます。

長江小学校育友  
会役員

くどい様で申し訳ないですけども、この件に関して最後にしたいんですけど、10あるものを12にすることはない。当然そうあってほしいと思うんですが、教える側の先生は増えない。教える側の先生は学ばなければ、子供に伝えられない。そんな環境で、今教育長が言われたように、10のものをやりくりして、てっぺん10のままでやりくりするっていうのが可能なのかなと。言葉は悪いですが賢い方が先生やっているんで、それはできると思います。でも負担っていう意味は、また違うと思います。ただでさえ、英語教育増えました。学年ごとに、でも先生方、教科書を渡されてその場で教えているわけじゃないですよ。その前に勉強しているんです。国語にしても、算数にしてもそうなんです。それを負担と思うか思わないか。これを10の中に含めるか含めないかといえば、多分含められないんです。でも我々から見たら先生方こんなことまでやるのっていうもの、プラスにしか見えないんです。もうそのちょっと感覚の違いかなというのは思いますので。そこら辺も含めて、やっぱり期間を延ばしていただくであつたりとかは、検討をしていただきたいなと思いますので、よろしくお願ひします。

教育委員会事務局（司会）	<p>他に質問のある方はございますでしょうか。</p> <p>それでは次に（２）の今後の予定について報告をお願いします。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>ちょっと資料ございませんので口頭でお話ししたいと思います。先程、保護者説明会と地域説明会につきまして報告させていただきましたけれども、この後、第３回の保護者説明会を今の予定ではちょっと明確にこの日とは言えないんですが、７月の中旬から下旬あたりに行いたいと思っています。</p> <p>これまではしまなみ交流館で、関係する６つの学校の皆さん一堂に介してという形でさせていただいたんですけども。第３回は学校ごとにさせていただきまして、要は６つの学校でこちらが出向いて計６回、行って個別に再度ご説明をさせていただいたり、学校ごとのいろんな思いとかあると思いますので、そういったことを学校ごとにしっかりとお聞きをしていきたいというふうに思っています。それが終わりましたら、おそらく７月の下旬から８月の中旬ぐらいになるんじゃないかなというふうに思っていますが、もう１回地域の方に出向かせていただきまして、これも小学校区ごとに出向かせていただきまして、改めて様々な疑問でありますとか、ご意見もいただきましたので、そういったことに再度お答えをしてご理解をいただきたい。というような場を設定していきたいと思っておりますのでご了承いただけたらというふうに思っています。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>今後の予定について、ご質問があればお伺いします。ございませんでしょうか。</p> <p>はい。それでは次に（３）各育友会・PTAから報告や全体を通してのご意見、ご質問がございましたら、お伺いしたいと思います。</p>
土堂小学校育友会役員	<p>先日に説明会などあったんですけど、なかなかお子様がいらっしゃって、夕方出席しにくいという方が多かったので育友会の方で、今思われているご意見や、ご不安点を伺っているところです。それがまとまりましたら、またお持ちさせていただきますのでよろしくをお願いします。今そういった状況です。以上です。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかに、ご質問意見等ございましたら。</p>
長江小学校育友	<p>各校回っていただけるということですので、長江小学校に来られる</p>

<p>会役員</p>	<p>ときに、ネガティブな意見もいろいろあるんですけど、説明会に来られる時にこういった教育を目指すという部分にその一点を集中的にお答えいただきたいというか説明いただきたいと思います。</p> <p>中にあるようにして通学のがどうのこうのってありますけど、今現在、長江は通ってます。そんなところを今、話し合いするよりも、統廃合に向けて、そして統廃合した際に、このような教育をするんだというその思いをしっかりと伝えていただくようお願いしたいと思います。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>他にございますでしょうか。</p>
<p>土堂小学校育友 会役員</p>	<p>ちょっと単純に質問なんですけれども。統合についての教育長の考えっていうのは、すごく素晴らしいなと聞かせていただきました。</p> <p>新しいところに取り組んでいかれるのがいいなと思うんですけども、統合校以外の学校に関しては、どういうふうにされる予定で考えられていますか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>例えばモジュールですね。小学校の。これは今何校もモジュールに取り組んでいってますので、これをさらに拡大していきたいと思ってますし。それから、新しい事業イメージっていうのは、これは今、各学校が主体的・対話的で深い学びって言って、この国際バカロレアの理念を日本版にしたような、キャッチフレーズなんですけど、これに向かって新しい学習指導要領に取り組んでますので、私が言ってる教育っていうのは、他の当然やってほしい教育ですけども、やっぱりそのためには、先生方の今までの一斉授業のスタイルからどういうふうに意識改革をして。評価の問題もすごく関係してくるんですね。この新しい教育を進めていくためには、テストでどれだけ覚えているか。っていうの知識をテストして調べるような教育とはちょっと違うレベルの教育なんですよ。ですから、そういう結論に至ったそのプロセス、どういうところに目を付けてどう考えて、自分なりの結論を導き出したかというそういうプロセスも評価していくような評価の仕方も変えていかなきゃいけないっていうのが、今国レベルで検討もされていますし、実際高校入試とか、大学入試でも少しずつそういう方向にシフトしています。残念ながら大学入試で、記述式の評価が難しいということで、それで駄目になったんですけど、結局、客観的に評価するには、はっきりと点数が丸がつけられるようなもんじゃないといけないという難しさがあって、今なかなか日本でも苦慮しているところなんですけど、方向としては</p>

	<p>そういう思考のプロセスを評価していくっていう方向に今移ってきています。それはそれで各学校でできることだと思うので、しかも、それは今少しずつですけどそういう方向へ、市内の各学校もシフトしていったらと思います。</p> <p>それから、英語教育ですけども、実際に私が言ったようなことはいくつかは実際に市内の学校でやっていらっしゃる学校もあります。私も、この前見に行ったんですけど、ですから、どこの小学校でもできると思いますし、中学校もインターナショナルデーということで、市内のALT 9人いるんですけど、全員をその一定期間その学校に中学校に派遣して、とにかく使って生活するような、そういう1日そういうふうにしていう取組もすでに始まっています。夢物語ではなくて、そういったものをどんどん各学校していくとか拡大していったら、尾道市内の学校が教育を充実していく、方向に行っているんじゃないかなと思います。</p> <p>それから、おのみち学については、今、土堂小学校と長江小学校と長江中学校で、県教育委員会の探究的な学習の指定校を受けていて、今年で3年目が終わるところなんですね。</p> <p>長江小学校、土堂小学校、長江中学校の探究的な学習の進め方の研究を3年間していただいていますので、これはやはり他校にいかにして広めていくかっていうことは、これから当然考えて行きたいと思いますので、全くゼロのところからスタートはしてなくて、もうすでにちょっとずつそういう種は蒔いてあって、それが少しずつ今成長している、そのようにとらえていただけたらと思います。</p>
長江小学校育友 会役員	<p>基本的には統合校をモデルとしながら、おいおいというような形ということですかね。ありがとうございました。説明会とかでも先程〇〇さんもおっしゃられていましたけど、やっぱり方向性とかおっしゃっていただいた方が腑に落ちやすいと思うんで、統合校だけじゃなくて全体のイメージも伝えていただければいいのかなと思いました。ありがとうございました。</p>
教育委員会事務局 (司会)	<p>次の方、よろしくをお願いします。</p>
山波小学校育友 会役員	<p>いろいろな教育について素晴らしい意見を聞かさせてもらったんですけど、よく教育委員会の方々、子は宝とよく言われるんですけど、子は宝に対して、近頃は物価も上がり、物資も値上がりし、限られた給</p>



食費の中で、僕らの小学校の頃には必ずデザートがあったんですけど、給食費、物資上がったということからデザートが今の子供は滅多にないそうです。

それで、本当に64億円かけて、新しい校舎を建てるのであれば、その税金を子供たちの給食にしっかり与えてあげるっていうのもいいんじゃないかなと思いました。僕の友達で福山市に住んでいる人がいるんですけど、尾道市の中学校は給食はないよ。と伝えたことがあるんですけど、であれば尾道市の学校には絶対行かせないっていうんですよね、子育て世代の方が。そういった中で今後、統合、統合ってなっていくんだと思います。その辺の対策はどうなんでしょうか。いずれ山波小学校もこの統合の問題になって一緒にくっつくと思うんですよね。人口は増えることがないと思うんで、その根本的なことをどう考えておられるのかが知りたいです。よろしくお願いします。

川鯨教育総務部長

給食のことなのでお答えします。今、確かにですね、物価高の中で、尾道市だけではなくて、もう全国がこの給食に対する、やっぱり費用がかかりすぎる言うことで悩んでいます。簡単に言えば、値上げしてしまえば早いんですけども、やはり今こういった状況の中で、値上げ云々かんぬんっていうよりも、尾道市として、補助していけるのかということで、今年度4,500万円、市から給食費に補助しています。一食当たり30円とか40円とかいう単位になるんですけど、この部分を給食費の食材部分っていうのは、法律上は保護者負担になります。人件費とか施設費とか光熱費っていうのは、もう最初から市が負担をしているんだから、食材がその分値上がっているっていうことなんですけれど、ここはしっかり我々も先程言いましたように、今年度は4,500万、去年はちなみに3,600万、入れてますんで。こういったことで、今一生懸命、給食も努力していますので、なかなか昔のような形で、デザートがっていうのもあるんですけど、ここはきちっと努力をして、栄養士も頑張ってますんで、評価していただきたいなど。

それと、中学校の給食なんですけれども、今の予定でいきますと、令和8年度、中学校全員給食になります。今、高須の方に、大きな共同調理場を造るという動きがもう進んでいます。今は、デリバリー給食という形で、必要な方はデリバリーということをお願いをしているんですけども、これを全員給食に持っていくということで、今どうしても施設には時間がかかりますんで、令和8年度全員給食まで頑張りますんで、もうしばらくこれもお待ちください。よろしくお願いします。

教育委員会事務局（司会）	あと、前回の意見交換会の方で、質問させていただいたことについて事務局の方から報告させていただきます。
三浦学校経営企画課	<p>前回ですね、閉校事業に関しての公費負担がどのくらいかということをご質問いただいたときちょっと具体で答えられなかったので、今回回答させていただきます。</p> <p>尾道市立小中学校閉校記念事業補助金交付要綱という要綱がございまして、これに基づいて過去の統合もやってきたわけなんですけど、どういふときに出るかということですけども、まず1つがですね、閉校となる学校の記念誌の発行に係る経費、それから閉校となる学校の記念碑の建立に要する経費、それから、閉校式を行うための経費、その他適当と認められる経費ということになるんですけど、額がですね、通常の統合の場合、統合に関わって閉校する場合は、先程の経費かかった経費の2分の1の範囲内で上限を1校当たり100万円補助しますよというのがあるんです。それとは別に、地域の小中学校が同じ時期に統合する場合というのがありまして、今回の事例はそれに該当するわけなんですけども、この場合は必要経費の4分の3以内の額、上限が1校当たり150万円補助をさせていただくという規定がございまして、今回の場合も、閉校関連事業は、これに基づいてさせていただくということになるかと思えます。</p>
長江小学校育友会	後半の部分での4分の3ということでしたら、閉校に伴う予算として200万円使ったら150万円くれると、でもそれ以内であればどんどんやっば削られるわけじゃないですか。もう単純にそれだけの話ですよ。ですから、今のところ、天井としたら、行政として、150万円以上のものは出ませんよってということですよ。（三浦学経営企画課長＝そうです。）以上です。
教育委員会事務局（司会）	他に質問等ございますでしょうか。それでは、協議の方は終わっていきたくと思います。次回、第6回意見交換会についてですが、今後、7月から8月上旬に行う予定としております、保護者説明会、地域説明会の後、開催できればと考えております。日時場所については、後日相談させていただきます。それでは最後に、小柳学校教育部長から閉会の挨拶を行います。
小柳学校教育部	<p>4 閉会</p> <p>本日第5回意見交換会として、これまでの5月15日以降の取組に</p>

<p>長</p>	<p>ついて説明等をさせていただきました。今日、教育長の方が教育教育委員会として、新しい学校、こういう学校を創りたいということを述べましたが、教育委員会として思うのは、やはり現場の先生方が授業を実際されていくわけですから、教育委員会の目指す理想というのは、当然持たないといけないと思って今持っていますけれども、そこをやはり学校の先生方と一体となって、共通理解のもと、どんな本当に、この地域の子供たちにとってふさわしい教育なのかというのを具体は、これはもう先生方等しっかりと教育委員会で話をさせていただいて進めたいというふうに思います。</p> <p>それからちょっと閉会の挨拶からそれるかもしれませんが、地域という考え方が地域の説明会に行くところまで地域になるんだという話を結構聞きました。私たちが地域と考えているのは、基本的には小学校区です。ですから山波小学校であれば、統合しないですから、山波小学校が地域になって統合3つの小学校がすればですね、この3つの小学校の小学校区が1つの地域として考えていくわけですから、ローカルな学びの中で、とか神楽とか太鼓とが出ましたけれども、例えば山波小学校が地域を超えて太鼓をするのかっていうとそういうことは考えていません。基本的には今やられている、神楽等は、やっぱり中心として、教育内容をこれまで積み上げてこられていますから、そういうことをやられている新たに3つの小学校が1つになった場合には、それぞれの地域の今子供たちが総合的な学習でやっている中身をどういうふうな形でやっていけば、子供たちの学びが深まったり、また地域の方に協力してもらえるか、そういう観点で教育内容というのは作っていかないといけないと思います。だから、それが学年でやるのがいいのか、縦割りでやるのがいいのか、全部取り入れるのがいいのか、そういったことはしっかりと話をしていけないと思います。</p> <p>また今度は、中学校が1つになりますので、小学校だけで学習していた中身が、中学校に別に入ってもいいと思うんです。ですから、そういった中学校の9年間を含めて、そういった地域のローカルな学びと言うのは再構成していくものじゃないかなというふうに思っていますので、様々な不安とか懸念材料というのをいただいておりますけれども、私たち教育委員会だけで当然できることではありませんので、学校とも話をしながら、また保護者地域の方とも、こういう話の機会をいただきながら進めてまいりたいと思っております。</p> <p>私たちとすれば、もう本当に尾道のモデルとなる小中一貫教育を実現させていきたいと思っておりますので、これからも保護者、地域の方のご意見をお聞かせいただきながら、私たちの理想とする学校も理解をし</p>
----------	---

ていただきたいと思っております。

本日はどうもお集まりいただきまして、ありがとうございました。

20 : 00 終了